

強い危機感、安全対策に腐心



カムイロケットはNP O 法人北海道宇宙科学技 術創成センター(HAS TIC)が主体となり、荷物部分(ペイロード) S(全地球測位システム)が取り付けられた空 度近くまで下げて実験。 回数100回余りに及 び、機体の2区分で構 成。発射後、空中で切り 離され、機体 関係者が、最も危機感を 募らせたのが安全対策 面に。落下危険区域を後方 にまで拡大し、バラバラ

【大樹】道産ロケット「CAMU I (カムイ)ハイブリッドロケット」の打ち上げ実験が3日午前、町多目的航空公園北側原野(町美成)で行われ、成功した。昨年12月の実験では寒さのためパラシュートが開かず、人のいた司令室にロケットが飛び込む失敗に終わったが、耐寒性を向上させ、

落下危険区域を拡大することなどで安全を確保し、実験に臨んだ。失敗は許されない強い危機感の中、ロケットは無事パラシュートを開き、誰もいない前方に着地した。前回の教訓を生かし、技術を確認し、今後より高度な実験に挑戦するための一歩を踏み出した。(北雅貴)

大樹ロケット打ち上げ実験成功



実験終了後、安堵(あんど)の中でカムイロケットを確認するスタッフら

押し出されて開けられ、班の情報も永田晴紀H A S T I C 理事に集約。ど ちらかに異常があれば、 準備を止めるシステムを 指し回す。 動かす、パラシュートが開 かなかつた。 今回は天候で 今回は天候で 用紙を初めて用意、一般 見学者や報道陣に手渡

「失敗無駄ではなかった」

着地まで、心臓がつかれる結果だったが、無駄ではなかったと喜び、伏見はなかつた。 伊藤一 H A S T I C 副理事長は、これまでの技術ばかりに目がいき、肝心なものがおろそかに なっていた。前回は残念

カムイロケット 推進剤にガラス チックなど固体燃料と液体酸化剤を 組み合せ、火薬類を使用しないため、管理コ ストを大幅に削減できるなど安全で従来の小型 ロケットの1割程度の低価格で運用できる。機 体は再使用可能。成層圏のオゾン層観測を気 象観測用として期待されている。

